

【対策のポイント】

- 営農効率の良い大区画ほ場が整備され、**担い手への農地集積と大型機械・省力化機械の導入**を推進。
- 排水機場やパイプライン等の用排水施設の整備により、氾濫や湿田の解消と配水効率化による**高収益作物の生産拡大**。
- JA出資法人による大規模なハウス団地を建設し、**県内最大規模のイチゴ栽培**に取り組む。

【取組地域の概要】

○位置 やまぐちし
山口県山口市



- 事業名
農業競争力強化農地整備事業 (H18～H30)
- 主要作物
米、麦、大豆、イチゴ、タマネギ、キャベツ等
- 受益面積 144.7ha
- 主要工事
区画整理: 144.7ha(暗渠排水を含む)
排水対策: 排水機場1箇所、排水路1式

区画整理及び排水施設の整備

- 整備前の農地は低平地で**排水性が悪く、道路が狭小で用水路は土水路**であるため、園芸栽培に不利な条件。
- 水稻作が主体だったが、ほ場の大区画化と暗渠排水、排水機場の整備により、**高収益作物への転換が可能に**。



基盤整備
(H18～H30)



若年就業者の活躍

- 集落営農法人では平成27年から**農業大学の卒業生を社員**として雇用し、現在**3名が活躍中**。
- イチゴ生産法人では**17名の新規雇用**(若年人材の雇用を図り、**社員の平均年齢は30代前半**)。

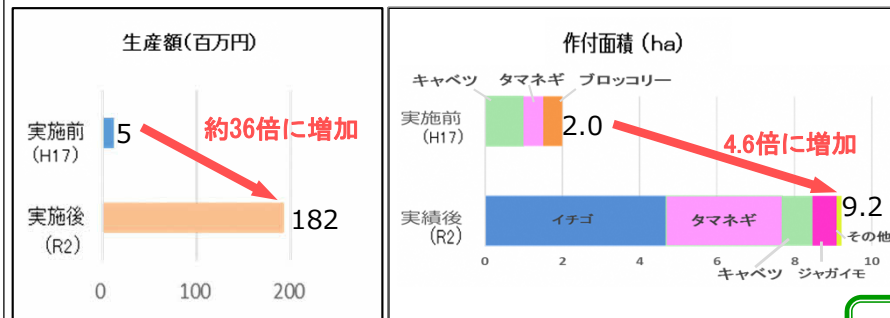


高収益作物の作付け拡大

- ほ場の大区画化、用排水施設の整備により**担い手への農地集積の拡大と高収益作物の生産強化**。
- 営農条件の向上により、**高収益作物を生産する新たな法人が参画**。



高収益作物の拡大



山口県
川西地区

かわにし

農事組合法人川西

大区画化と汎用化により土地利用型複合経営が実現 田畑輪換体系の確立で担い手法人の売上高は1億円超

位置図



排水不良と狭小農地の解消に向け 区画整理や暗渠排水工を実施

山口県南部に位置する川西地区は、瀬戸内海に面した気候温暖な地域です。本地区では古くから稲作が営まれてきましたが、海抜の低い干拓地のため排水条件が悪く、ほ場も狭小で耕作条件に恵まれませんでした。また経営面積が1ha未満の零細農家が大半を占め、近年は兼業化や高齢化の進展によって遊休農地が拡大し、地域農業の衰退が危惧される状況に陥りました。

そこで地元有志が立ち上がり、ほ場整備事業の導入に向けて奔走。地区内で合意形成を図り、平成18年度より経営体育成基盤整備事業を実施しました。本事業では区画整理や地下かんがいシステムを備えた暗渠排水の整備などを行い、平成28年度に完了。受益面積の大半で水田の汎用化が実現しました。現在は隣接する川西中地区と佐山北第一地区で農業競争力強化農地整備事業を実施中です。

汎用化の効果で単収が増加 タマネギは2割増、麦類は2倍増に

川西地区では整備事業を契機に法人化を推進し、平

成20年9月に農事組合法人川西（以下、法人川西）を設立しました。現在までに川西中地区を含む194戸の農家が構成員となり、川西地区の73・5%に当たる106・4haを法人川西に集積。大区画化と汎用化が進んだ農地を活用し、「水稻＋大豆＋麦類＋野菜」の田畑輪換による複合経営を展開しています。

現在は法人川西のほか、いちご栽培を手がける株式会社ベリーロード、飼料用米を生産する有限会社佐山ファーム、水稻の減農薬栽培に取り組む家族経営体を含む4つの経営体が川西地区の担い手となっています。なかでも大規模経営を展開する法人川西は作付面積を順調に拡大し、小麦や二条大麦などの麦類は事業実施前の9倍に増加。川西地区の耕地利用率は事業実施前の71%から150%へと飛躍的に向上しました。

汎用化の効果により、作物の単収も向上しました。特に高収益作物のタマネギは定植から収穫までの作業を機械化して省力化を進め、令和2年から4年までの直近3年の平均単収は、事業実施前に比べて20%の増収となっています。また麦類は生育が安定し、同じく直近3年平均で単収が180kgから350kgへと約2倍に増収しました。

整備事業の実施により、生産コストも大きく削減し

川西地区全景





農大生職場体験（はなっこりー）
山口県立農業大学校



農業大学校就職説明会
山口県立農業大学校



▲若手従業員 人材育成



◀リモコン草刈機



ドローン防除▶

ました。大区画化や農地の集約化によって大型機械の導入や作付けの団地化が進み、地下かんがいシステムによって水管理も省力化され、水稻・麦・大豆などの土地利用型作物の作業時間が大幅に減少。主食用米の労働時間を事業実施前の平成16年と令和4年で比較すると、10aあたり35・2時間から8・5時間へと約4分の1に削減されました。これに伴い、水稻の生産費も16万円から8万1千円へと約2分の1に縮小しました。

生産コストのさらなる削減に向け、法人川西ではリモコン式草刈機や農薬散布用のドローンなどのスマート農機を積極的に導入。防除にかかる経費は、導入前に比べて60%削減されました。

福利厚生や研修機会を充実させ 若い農業就業者を呼び込む

法人川西では、地域農業の将来を担う人材の育成と確保にも力を入れています。現在は登録制で常時45人の作業従事者を確保していますが、労働力を構成員だけに頼るやり方ではいつか限界がくると考え、山口県立農業大学校の学生を対象とした職場体験会や就職説明会を実施。平成27年に卒業生1名を採用したのを皮切りに、令和5年までに女性1名・男性3名の計4名を採用。令和6年にも女性1名を採用予定です。

若い世代が働きやすい職場をつくるため、休憩室やシャワー室を整備したり、育児・介護休暇や退職金の規定を創設したりと、福利厚生も充実させています。また若手社員には職場内研修のほか、JAなどが開催する各種研修会への積極的な参加を促し、将来の法人経営を託せる人材となるように育成中です。

事業概要

事業主体	山口県
事業名	経営体育成基盤整備事業（ほ場整備）
工期	平成18年度～平成28年度
受益面積	144.7ha〔水田140.2ha（うち汎用化140.2ha）、畑地4.5ha〕
受益戸数	253戸
標準区画規模	事業実施前 20a → 完了後 50a
1ha以上の区画合計面積	事業実施前 0ha → 完了後 55.7ha（39.7%）
主要工事	区画整理工、用水路工、排水路工、道路工、暗渠排水工（地下かんがい有）
関係土地改良区	山口市川西土地改良区
関係市町村	山口市



株式会社ベリーロードのいちごハウス



タマネギ全自動移植機

法人川西では10年後も地域に頼られる存在を目指し、現在1・1億円の売上高を1・6倍に増やす目標を掲げています。今後も構成員と若い社員が力を合わせ、川西地区の農業と地域振興に貢献していきます。